五節

巳春新版

山東菴京山作
歌川國安画

後編

へ13
2378
48

遠13
2378
48

年中行事

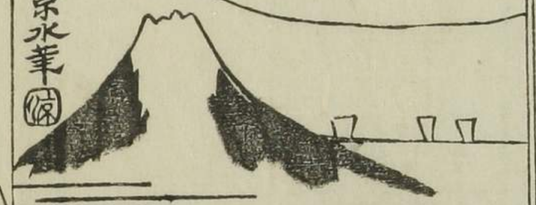
五節供稚曹講澤二編

全八冊 仙崔堂梓

天保四巳春發販

山東庵京山作

歌川國安画



一二の巻

目録

○富士山の業
富士まいりの起
○両国橋納涼のこと
○天王の由来同祭の事○山王御祭禮の事○嘉祥の催興○嘉祥の餅
○嘉祥食の事
正月より五月までのこと祝ひごの故事ハ前入ふかくしるせり

京都帝国大学

此書の編ハ去年卯の秋樵隅て巻見せしハ例の稚史の誠
ならめきこゝろ夫あくで年ハ行事の老実なるも年ひみ行まゝ
ぶる不稚曹も怪利なりてもとの名をしみも月球とゝめ
ものを浪猛ひとたゞ神もあるふつけて事の角ゝ春霞ひきも
ざる書籍のさんをくやむる球澤ぎて業の本ものをすぎる
京橋のふ亭ハ業球採て深更の餅つき球小夜きめとと
閑なくふか年の歳の編作ハ鄭のむ移れかの物ひこしふ今
年一辰の首夏画図偏書なりて序文球ゝを八六日
ふあやめ球ふき亜安の跡掛をもかりひこりを

天保三辰五月清書
晩秋發兌

山東庵京山識

百人一首雅講
初編八冊
譯 山東庵京山作
板元鶴屋喜右衛門

六月の部

軍さんけいの図

(二)百余丈の出を引きいでたるゆ朝鮮の昼ゆ人千ばん山の
引きのつるゆあるまいとの月れを大日元年(三)

(四)木花開耶姫のみことと

日本いまごひらけ
つるぎのも
山もくさき
ひとりげて
くもきうつゆ
あひてあつきのうぐいみ
まるのふりもくもきうみ
つまれてとうけうくも
ろうろうふ孝謙天王
の五年六月のくもき
一村ふれるゆあくも
見ひてきもちぶ
しるるべいい
せつもわう
いつきゆうち
ともるるゆう
ろれども一夜の
うちゆうきでまの
めでもうむ
ゆうこ一宋の
景德年
朝鮮の
南の
海中
ろう(一)

まろうてちぢめて
中ろと光雄
なそう山をふき
ひときーいろえの
ぎあうじゆ弘法大師
佛をうとつくうて又
きたんあう
延喜年中
つぎ

ろうと
きうせる
せく

ろうと
せう
ぶ
ゆ
ろ
ぶ
ろ
ぶ
ろ
ぶ
ろ
ぶ
十五ぶ

土用見舞

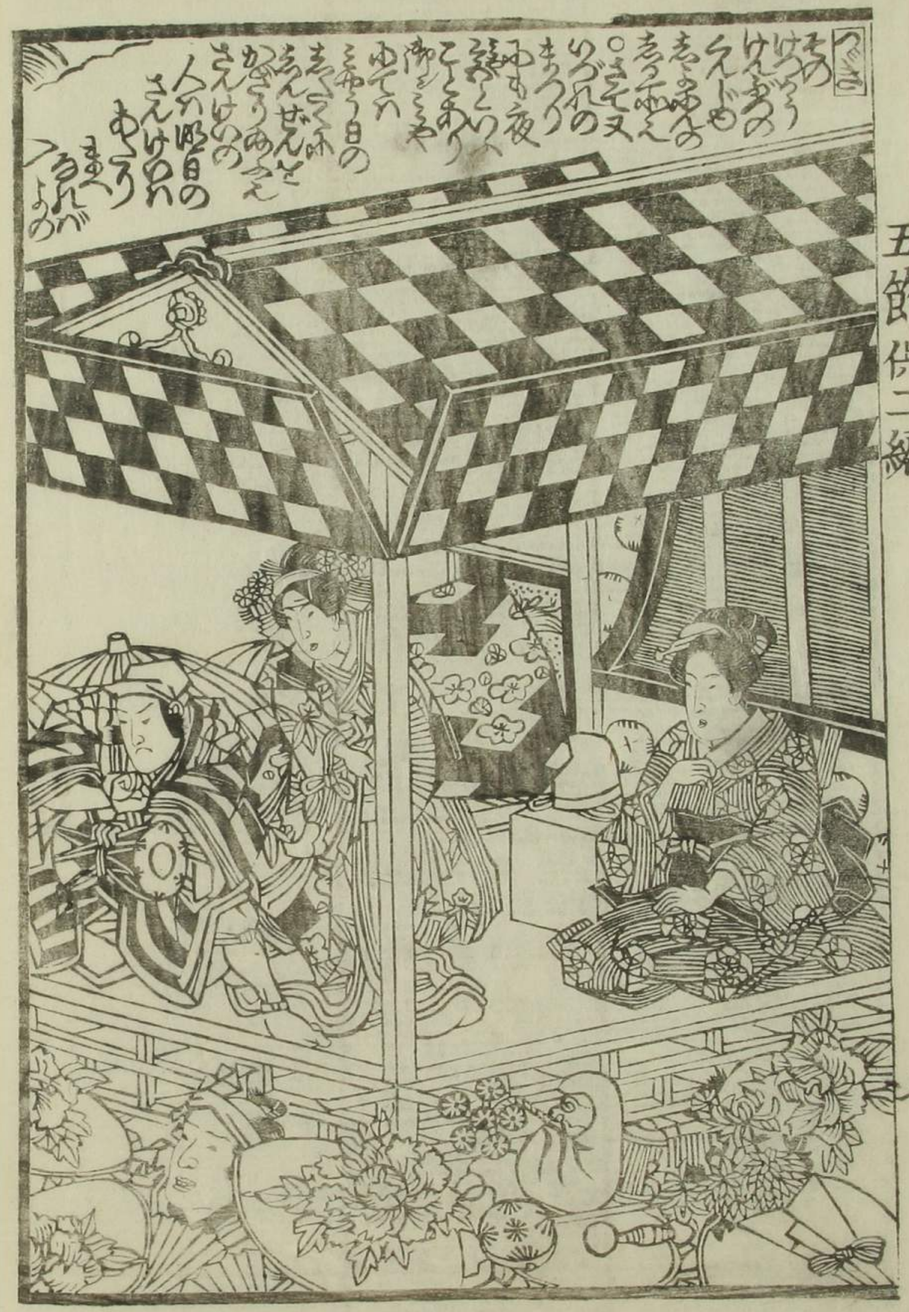
江戸の納涼

六月の風ぞく

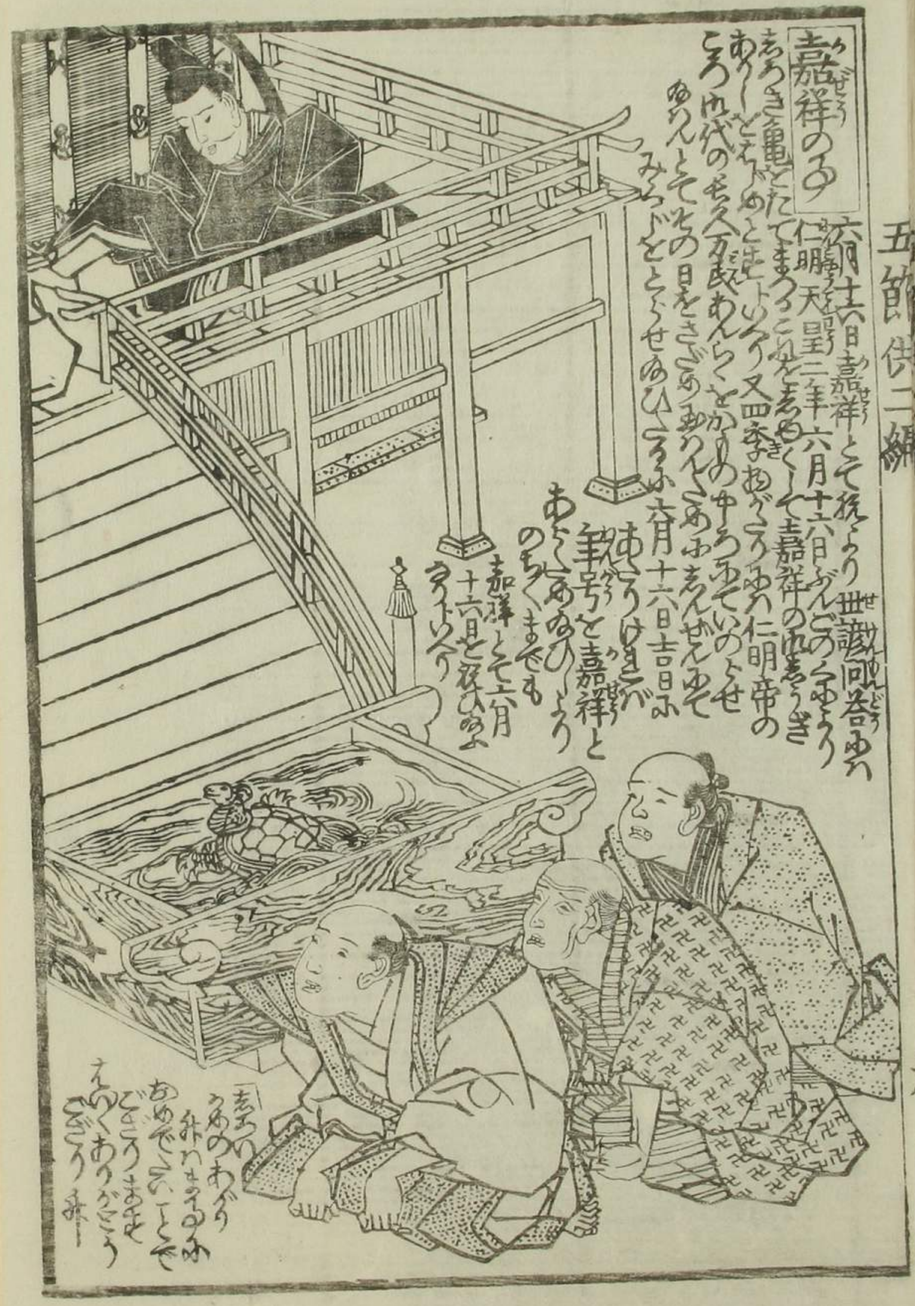
や

氏子

天王まつり
氏子中



山王御祭
禮踊子
供雛子
方辨當
休息之圖



嘉祥のゆ

六月十六日嘉祥とて祝ふ世諺に咎ゆへ仁明天皇三年六月十六日ぐんごうのれいぎ
ちろき亀をたてまつることなりとぞ嘉祥のれいぎ
あり〜どうぶつとしてとりつ又四季ねがうゆへ仁明帝の
ろゆ代のもち人方民あんらくをかしめゆうゆていのよせ
みんとてその日をさだめありんさあふまんせんゆそ
みちびをとらせゆひさろふ六月十六日吉日ふ
はくうりゆ羊羹を嘉祥と
あらくあゆのひ
のちくまでも
嘉祥とて六月
十六日をえらびよ
うとりつ

嘉祥の餅のゆ

かぞう喰ふて
今も祝ふゆへむ〜
室町どの〜ろ六月
もさきのあそびよ揚弓ゆ
かりめをしてはけ
いろうめい嘉祥
通宝のせふ十六文と
いうてうちくる
めくのぶさの
きんぎをとてのべて
ちそうーける
のちのゆふ
いろうてん揚弓を
引て
かけめを
もろうへ
せまして
十六ゆろ
のゆを
そのへて

つぎへ

「きのうのあさくさ
よひやうかや
さぢあさん
めいまもぞく」

「めでたくの
ひとくさの
さまうよ
下々の
男きも
たくも
ちがる」

「つぎ」これを吟じていそいでとまた又一ぱい
嘆嘆帝のまぐ御ごうをふつるせのうぎうー
ときに六月十六日 嘉祥の通宝のぜに六文をて
たべものをこの山盛ふ供へ[illegible]御れいを
もつて御位ふつるせのひとるのちも吉例と
して六月十六日御上嘉祥のもちをて
みんなたそまつり 臣下へもあのりー
由来今ふかせうのゆのそひ
ありとしつり又天正の比なをうの
山吉ぞのありーとうの出のそひ
ありといの流れぞかくる
いのき名をとしへまるまべきへ
いともかーとてもそれあまるべ
きうさまも

○菓の此のぞふ一すぢひうう上升
江戸吉原ー永でんせ女をとこ
ぐまう男天ぐんやく 饗姓形一ぢ五文
まぢ二文五ト女ひ五十ぢ上ーうとも
月やくうる内ハまるもあまうう
男ハかーらふ重をいぐくとものも
たのーまきいかやてまこーも月ふ
さうくるかるくどんつるくうきんよ
こーまるうるかーもの月ひてまうべー

御免江戸暦開板所

毎年一月下旬ひくうー 奥初めかは
[illegible]注文元 仮刷ーうかは

載陽帖

南山禅師書東海道四条了和尚章石間木曽海道

道法眼筆川道中記

一枚摺

新撰 **日本名所之繪** 唐紙刷一枚 蕙齋鋤形絵真筆

新撰 **女占狀揃園生竹** 大本半紙本 両品出来 高井蘭山編撰

還魂紙料

柳亭種彦隨筆 古画入二冊

田喜菴輯 **芦のしとも** 芭蕉翁関係の[illegible]

隨筆 笠翁 筆 **玄同放言** 初編二編 共六冊 [illegible]第三編三冊 近刻

右才三編三冊 [illegible]
初編二編に[illegible]

芳艸集　三歌仙木校輯　全一冊　開　板

同輯　蘭集　全一冊　追　刻

歡童戲筆　遊言画手本　一名　鳥羽繪早まなび　出来

廣益塵劫記　懷中早割大全　小本　一冊上　前編出来　後編嗣刻

新形染彩目　楢花手引糸　前北齋為一筆

芝居役者　似顔早稽古　後編　全一冊　五渡亭國貞画

八文字自笑評　三箇津役者評判記　全三冊

即考白籤　全一冊

稚童講譯

供

後編 二

鶴喜板

外題 廣重画

五節供稚曹講譯三四之巻

目録

名越のそうこのうちれいの事
盂蘭盆箕のすゝ
七夕のちぎまつり
たんざくかのこと
いもの子のつゆのうち支硯
ちくふせけ七夕七日の節供
中元のちぎまつり
精霊まつりのちぎまつり

京水筆

京山作
国安画
仙鶴堂梓

三

㊀牛頭天王
たるの時とまる
てまぐみてみのまた
女ふのきあひのみ
ゆこころげのいろゆや
いのせとちぎり
あうんやさ、
ゆそのあうの
のをたづ
ゆま

名越のそうこのうち
六月晦曹名越の
板とそうづ方の
ゆきあひゆて
もろとこえその
ちぎめて
たづぬるみ
神社考四日
素盞尊
いまぐ
ねもつ
こうく

㊁

蘇民将来

巨旦蘇民

つぎは五月五日のあやめ
名ごりのたうひちの引ちがへ。六月晦日
紙ゆて人ぐさを祓ひ月うちそろそろあしきものを
什人ぐさふちりもりこうぶまを
たうひともの名ごりのたうひ
月をぎこちの月をぎこちの月をぎこちの月をぎこちの月をぎ
きもむろえ又ごてーとの聚紙とらの木を
つめくることむこうるふのあるよ六月
晦日の火たうひを引ぎとるまつ
夏の火秋の金ん六月晦日の
うの火ようり秋の金ん
ろりて天地和合せざる
時をこび人の月わも
ゴをぎこのあるぎこをなりこて
ぎれのやごこるきわこう
ゆそもやきせのくたうひん
後水の家ふ呼べるわさぢを
かやこ人るーそのとひ一月をも
うぞるけのるる。いづこ式紙のるふ
おりこーこうつきひとそ
麻の葉をきりこ
きうてを
たうひつるる
ちのこをてるこき
あのるをこ三ぐんこう
たりのあーうみ

あのあーうめる
かくもれがそのこ
まあるせよーと
出陽どのくれとうふ
あのふるぐうり
○竹をはくるを
えこーとおさてゆぐも
あるたるうん
七夕さまの
たべ
ま
ゴを
おそるるーゆそう
七夕のあれひとーかう
女郎のまつるあ
おるうーこのふぐも
あるいはくあるーて
ぐれゆぐそのーきあ
ふせこうゆいあひあさ夏
あときのあそるーのたるゆも
ろりまあせうぞやふーて
おるーこうのもこーんはこうも
あれぬあるーこうまん
たれとたうぐのぶのふも
あれぬ

七月の部

盆燈籠竜の子

女の風俗を上古中古近古と古図多くぐつて

七夕の夕

たんざく牛のゆ

かくもあるこそ七夕を
まつるゆゑなれ
この日は八月
たのかぜをうせば西北の方つくゑを
もちそのうへに香をたきこり火をかげ
七夕の品をそなへこれ
つくゑの左へたけをたてて立てきの
いとをかけ
たてこそ
又そうとたなばたの
さてそのうへたなばたの
あをいきをそれ
こまかにうもとをのりと
むろのかたちのそうとそなる
いとと
そうたのねがひごとの
叶ふまつ
ねがひごとの
ゆきこそこのるく
珠と入れるき
目のわさ

こたへ　ひきり
ひきき　牛
ひとつ
たなばたの
内へのとをかけあみだ

ねがひごとの
ことを供へか
さてわゆゑ
ゆひつけて
ゆきぎ
ゆきてい
もろこしゆ
いつねをひ
いつまでも
たんざくを
みかぎのまま
まゆみ
ゆきとの
かいこの
いろはほこ
天の川
ゆきて
そなを月日
やいたいと
ろうそくたんざく
かなてあげ
さんざく
おそくひろ

織女

たんざくかくゆ
これ町方
ゆきてたんざく
ゆきてい
ゆきてい
ゆきてい
ゆきてい
ゆきてい

瀧澤馬琴氏著

迎福南鍼録

一名相宅千引草
全部五冊 近刻

右同 著

雅俗百傳奇

大本 全五冊 繪入
平假名附 近刻

女消息往来

画入 全一冊

暦日講釋 全一冊 劍卜子先生著

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃 四人合作 正風の俳諧当時の流行なり

天保巳春新版書林地本問屋仙崔堂

追善 淀川くらべ 全一冊 琴通舎英賀述 歌川国芳画

香蝶楼国貞画 一勇斎国芳画

消息往来詳註 高井蘭山述 全一冊

隅田川両岸百景 北斎筆 袋入 絵本 全三冊

江戸名所東鑑 蕙斎筆 同 全三冊

江戸名所物見盆清長筆 同 全三冊

合則 寿福三世相大鑑 全一冊

東海道五十三次 花の都路 緒大人 狂歌入 同 全三冊

拳獨鑑 中本 袋入一冊 山樓連々逸軒揺舟作

戯場頭微鏡 懸湖隠作 同 上中下三冊

教真草消息往来 山本信有 絵 図註入 全一冊

傾城水滸傳第十二編 歌川国安画 四冊 下冊欠

百人一首童講譯 翌編四冊 二編四冊 歌川国安画

年中行事五節供稚講譯 山東京山作 前八冊 後八冊 歌川国安画

浮世説 柳亭種彦作 全四冊 歌川国貞画

三國志畫傳第五編 重田貞一譯 全八冊 歌川国安画

花街雀 柳亭種彦校 厚田仙果譯 歌川国貞画

竹夜遊 柳亭種彦作 前四冊 後六冊 歌川国貞画

八夢藤王傳記 二代目十返舎一九作 全六冊 歌川国貞画

霞帯メ如月 五柳亭徳升作 全六冊 歌川国安画

國字水滸傳第十二編 柳亭種彦校 相州磯部作 全四冊 歌川国芳画

侍紫田舎源氏 柳亭種彦作 九編 歌川国貞画

星下梅花咲 御手の紙屋善の綱五郎 全四冊 歌川国貞画

春遊霞彩色 鄭編四冊 全四冊 歌川国貞画

書物錦繪 江戸通油町 團扇地紙 問屋鶴屋喜右衛門

仙女香四十余 美玄香八丸坂本製 三百粉 成駒香 鶴聲丸 中村氏製

五

後編 三

稚童講譯

山東菴京山作
歌川國安画

巳春新

鶴喜板

廣秀外題

京山作
國安画

五節供七八堂

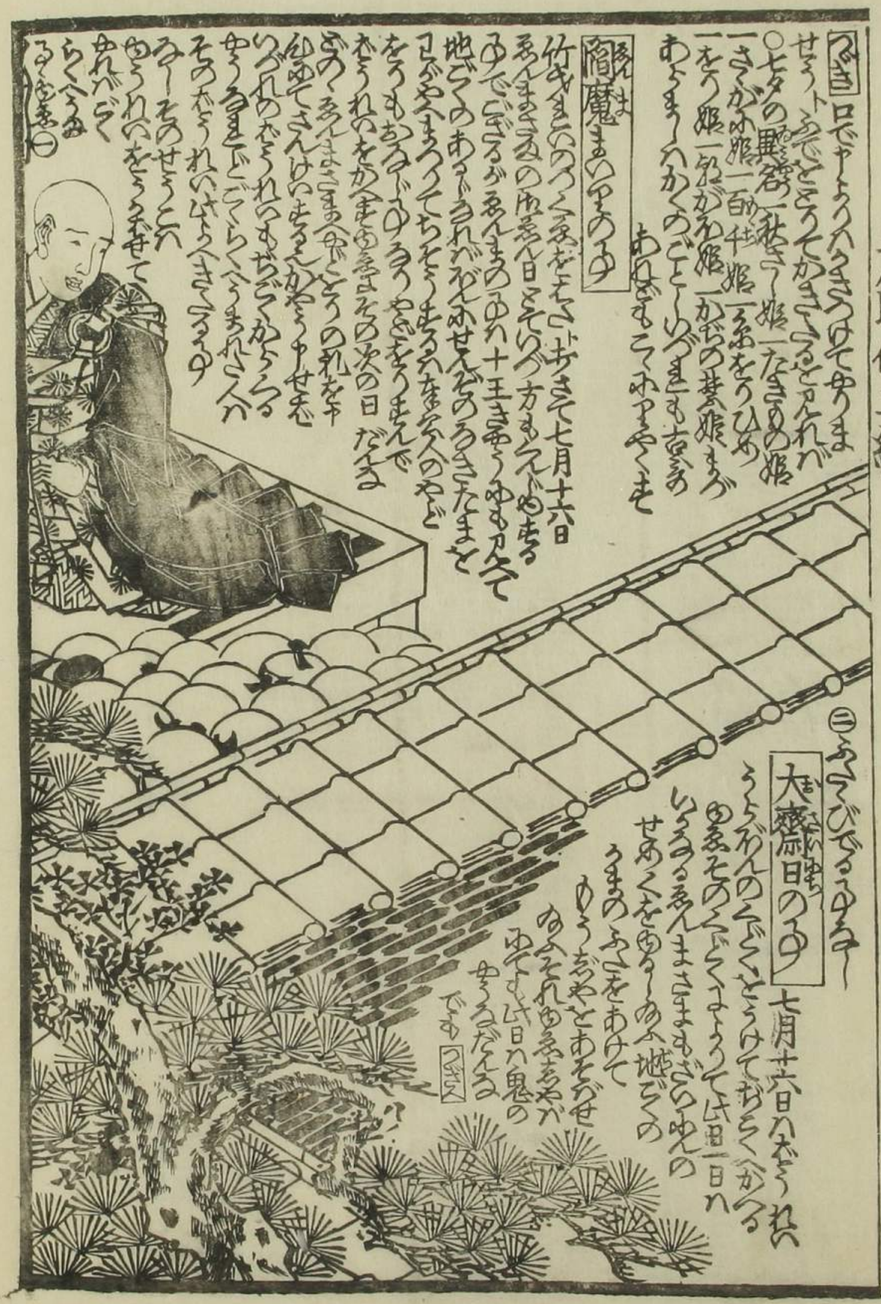
天保巳之
玄仙鶴
堂上梓

月録

○六の子小巨燈あけるなり○神無月のハ日れ
○縁結ひのなり○十夜のつけ○御会下講御元越
麦蒔の事○冬至○吹革まつりのなり○西の市
○餅搗○稼ぎ蓄のつけ○寒くの入り○乙子の餅
○乙子の朔日○なまぐものなるとぶをなり○節分
豆蒔のなり○福内のつれ○厄年のなり厄拂ひ

大晦日の事　全　部　大尾

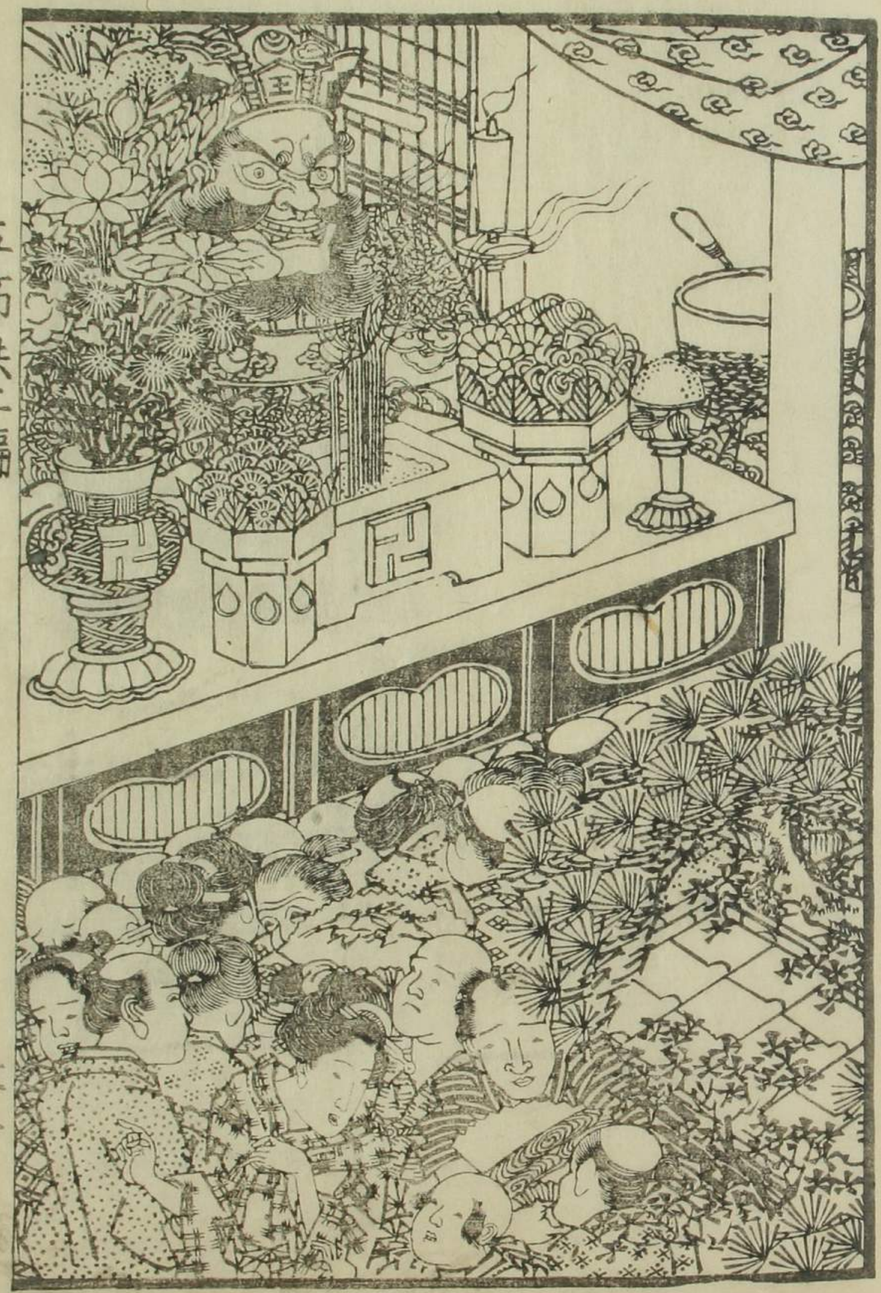
○竹ヤ公亡弟のもとへときてかくらちゆゑ
十五のひまあるゆゑ
なりをんでをかゆゑ
なりこまの女房
ちゆゑふるさうさる
母さまのこられてからまくしへ母さまの
そばでらまくしてゆ公のうそをこ
なりくなり母さんのひをかりひ
なりもうなりくうどぎりまを
ちんかうまつまこれうこ
あるなりの母さんとうりけ
なりさんせやうりせせいさんせ
人のひいかがこのやうなりのめ
なりければ又ゆちゆゑもゆうなりこ
人をかがこのとりてこのりけとうなりさ
あちらかくもスこのりけをうなりて
ちんそこちらありがこのなのせうとあり
かがこうせがゆゑ
たいしゆうせが
ゆうのかがこのかがこ
あひまゆうこをぬこ
○さて文三年ほの女中
ちせうさるまるこ
きのてるうりけ
あさがれひのトヤ

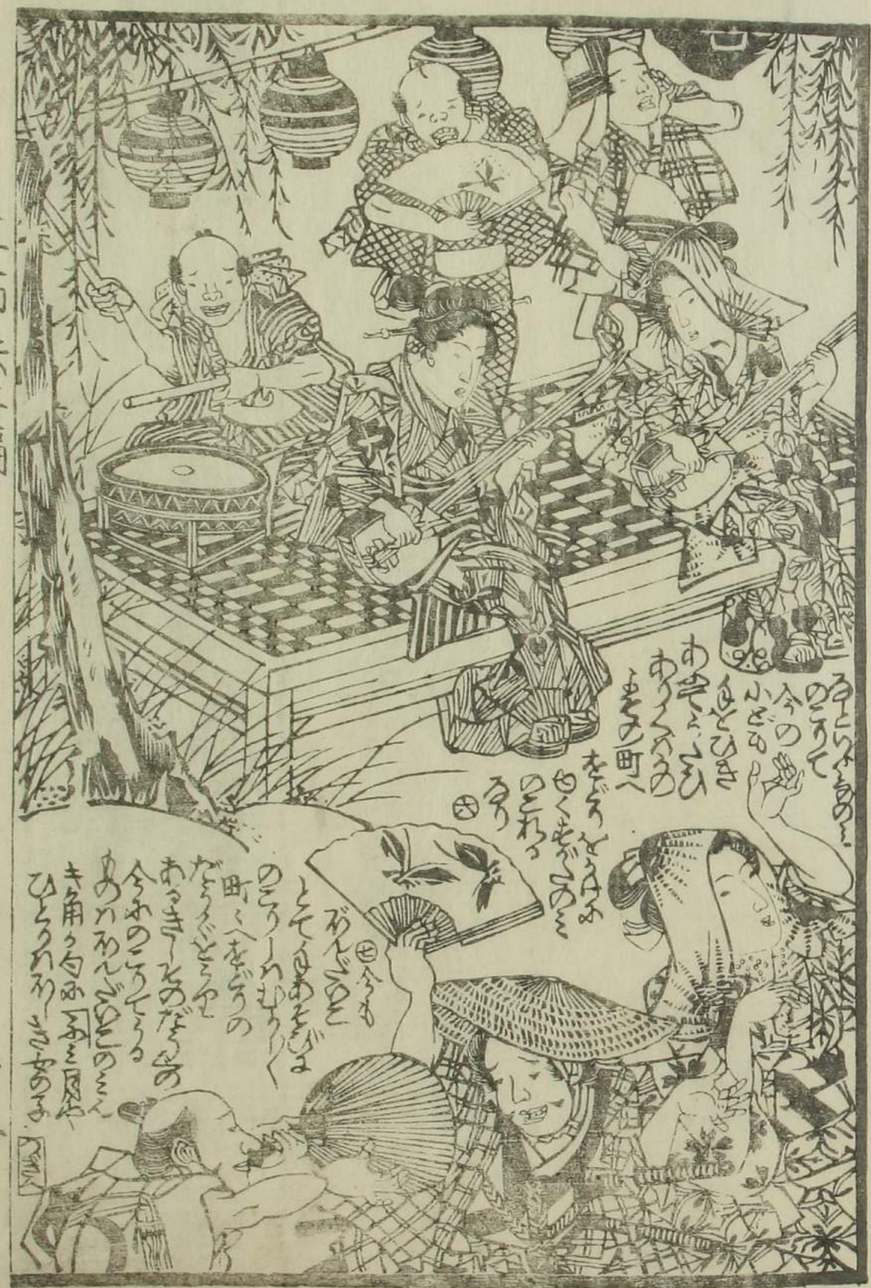


口でやうくさうのてやうませうとかでとうてかきうるとうれば
○七夕の願ごと一枚さうはなきうめ姫
一さがめ姫一百十姫一ふをうひめ
一をう姫一ぬがれ姫一かぢの葉姫まつ
あくまつくかくのごとしいづまも古ふの
あはぎもてみやくま

閻魔まつりの日

竹ぬきのつくえをたて歩さて七月十六日
ゑんまさまゑのゆゑ日ゑそらづ方もえんめちる
ゆでごろがゑんまのゆい十王さまゆゑ人て
地ごくのあくゑうれがゆめせんがのうさたまと
コびやくまつてちそうもちるゑをゑんのやど
をうもあうぶのうりやぶをうもんで
おうれいをかまのまさたの次の日だする
ちつゑんまさまやどうの礼をや
ゆめてさんけいもうしかやうやせも
つれのおうれいのもちがうるる
やうまでごてらくへうまれさんか
そのおうれいけうくさうるの
みーちのせうこん
ゆうれいをうえ母て
ゆれがごく
らくへうみ
るうをう





○八月の部

八月はつか

八さくを後ひ面の
ちゝまろの公事
根元をあんぜるか
後ゝ[illegible]
つゝせる面ぞう[illegible]
[illegible]

又建長
永年中

㊀ふいちゝ面あをあさん
[illegible]

㊁ [illegible]

㊂ [illegible]

㊃ [illegible]

㊄ [illegible]

㊅ [illegible]

㊆ [illegible]

㊀ 八さくと

㊁ せろあり

㊂ [illegible]

㊃ [illegible]

㊄ [illegible]

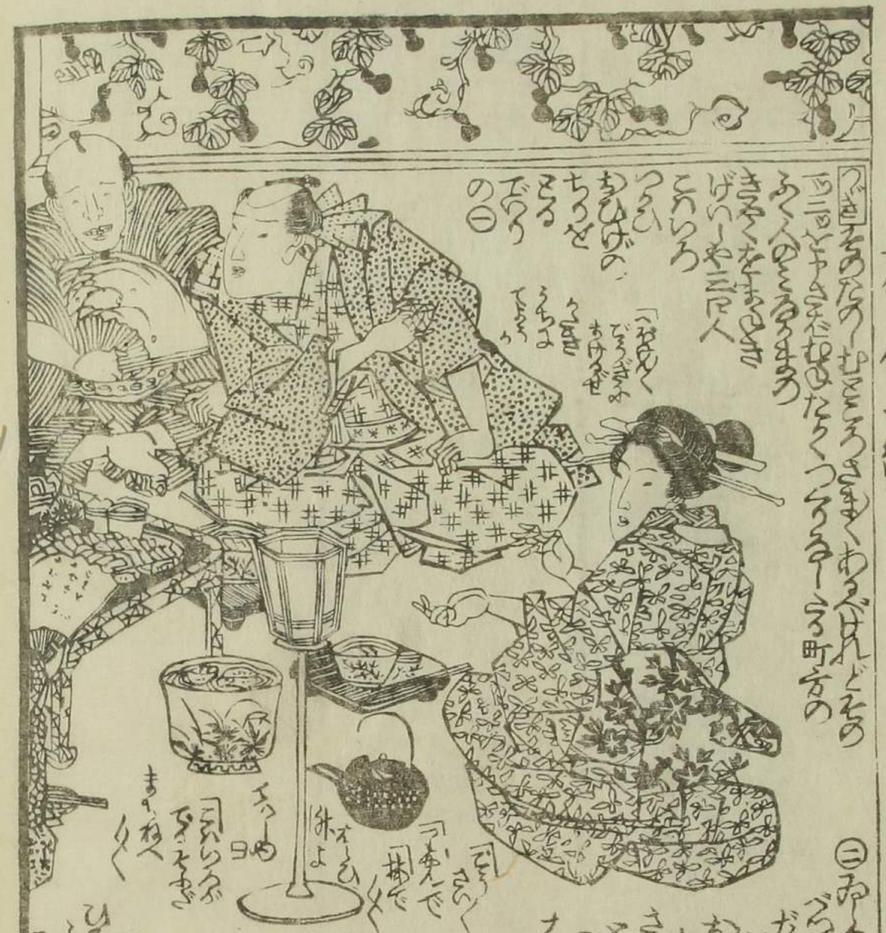
㊅ [illegible]

㊆ [illegible]

㊇ [illegible]

㊈ [illegible]

㊉ [illegible]



つゞき おまゐりてのさまあり きのぞなゐるら三みせんありて きそ平にわたるかどのが むかしよりこゝにきたりし その ふへわらでぞ一ぞ ありのの わらわざふゑへ内の 女ぞうがていものまで 「ちくせうめ」 ざまあ下かわめる そぞのをぞろり ちらちこぶを わらひて せきの金 時ゐけるが ごとかゝる 月かよあぞの なのしむ 面ゐおかしげ うきべわる 人の言 うふ「かくおるの めで くえ やる 世の

㊂ 代々の錦の山のそのゐ月がでゐるとまつておきれ おりめどもよぶおけてくるりあれば十六日の月を よまし申わらぞ上りのせつわとぞも むかしより十六日をいざよひと言ふゆへ わまくら大宮家にも十六日を いざよひとさまあわり又まろ あひとりの十五夜を持ち 賞翫する事とぞ

秋の彼岸 春と秋の ひがんは時よりとひとしくこちら ぞも ひきまみざくもちき時ゆて仏の名を ふくらぬを むかしよる 由来よひがは 仏のみ ㊁

㊃ まさとと いうゝ又ぞ ゆくめうくの おん下をめうつれ あんま 大たい

中を うら山 しくや のぞく 月かげ と あれ しりの めぐりの 古 むかしをおりて下るる 三ぞうさまでくるり ゐをさまよぐの 月なもあれぞ さのこれそ あきのつゆの 二ツをさうせう

いざよひの月 十六日の月を いざよひといふ 是は源氏物語の まきの名に 「山のはのいざよふ月をいぞ見る」ともいへり よぞふけゆける ㊀

光仁帝の御時より 同じ九月の日の 続日本紀ゐ見へてあり

天王をまつりて あまの ひがんに仏の 五大尊をまつりて ぜんぎ寺ぜんあくをたゞしとるにて せうゐ大師の 又ぞうゐ大師の ころせうをねがふ あの春と秋の ひがんを用ゆべしと まほう ませう月日のそく 寺のえらび申ぞく らくにまぬよゐある のかよ二つのひがんに仏のみを くわうまゐるとある

○九月の節

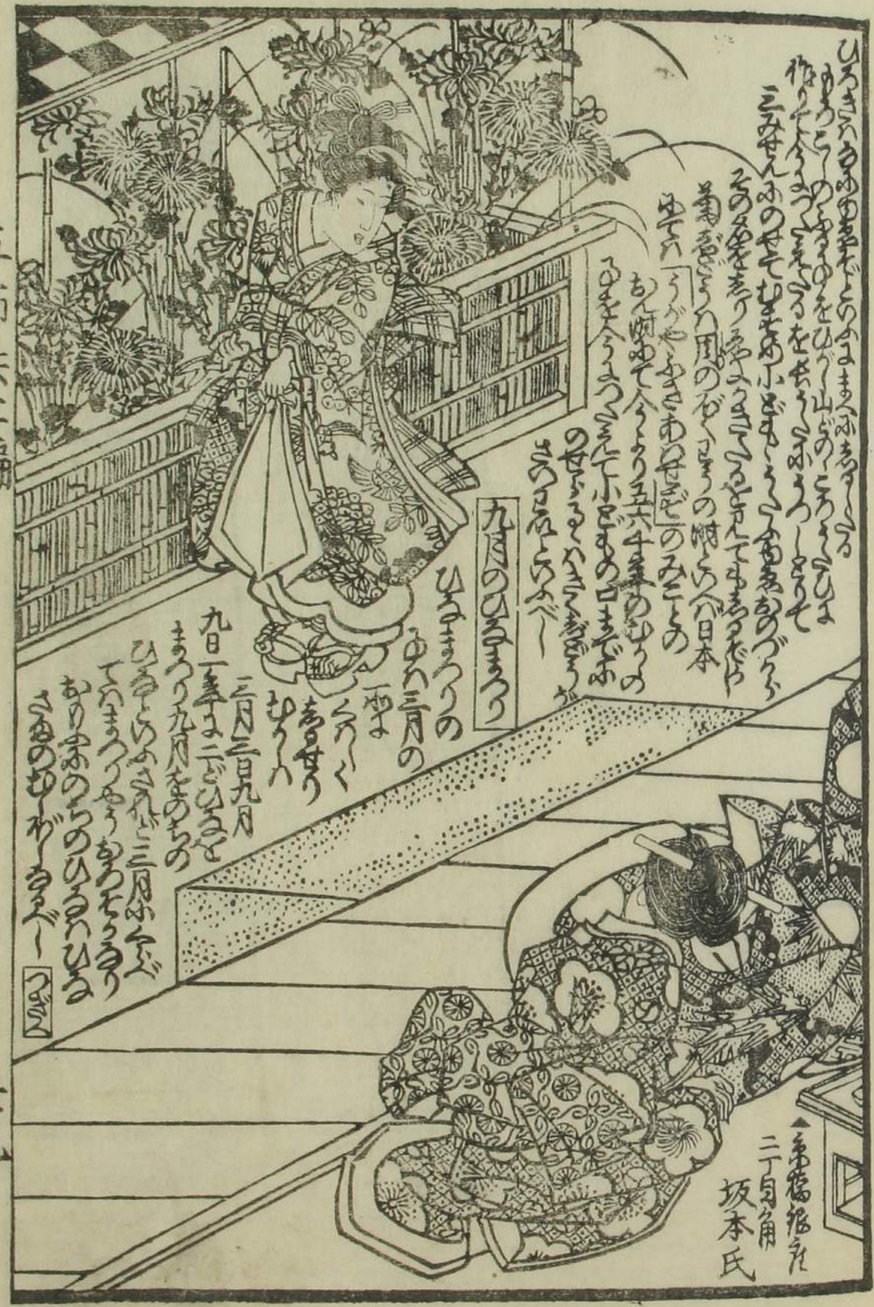
重陽の節 九月九日を重陽と いふ九ハ陽の数なり 九と陽の重なるゆゑ 重陽といふなりこの 節の名なり又重九ともいふ 同じく九月九日の重陽のせちゑ 続日本紀ゐ見へてあり ㊄

菊花の宴 とぞ 賜ふ臣下 きくのさけを のみ代ゝの菊の たつ

㊅ 九月

菊の露をのみて寿命長寿をのぞむ 周の穆王 霊鷲山の長いきをする法を 釈迦如来よりさづかり その法をちぢにつたへ 彭祖と 名のりて 魏の文帝ゐつたへ 文帝 百歳の長寿の術をうけて 又その のちぞ王のおなじのとぞ 世こときく王のまくらをつぞく

菊慈童


坂本氏

㊀五代崇徳院保延元年九月十三夜寛平法王ものがたり十三夜の月をもて中右記小右記等の宗忠公の記録をもて十三夜の月をもてあそびしことをもてあそびしことをもてあそびしことを

天保四癸巳孟春　鶴屋喜右衛門板

御免江戸暦開板所　毎年十月下旬にいたり翌年の暦出来

載陽帖　南山禪師書東海道四季の和文章石摺木曽海道

新撰　日本名所之繪　唐紙摺　枚　蕙齋鍬形絵真筆

新撰　女占狀揃園生竹　大本半紙本　両品出来　高井蘭山編撰

還魂紙料　柳亭種彦隨筆　占画入二冊

田喜庵輯　芦のしたもえ　幻住菴記略註

賞笠翁隨筆　玄同放言　初編二編共六冊　後編三編三冊　近刻

芳州集　全二冊　板　三都共不校輯　関良知氏甲斐信玄の人にして附合言葉にあつめ筆者の人にして附合言葉にあつめ筆者の人にして附合言葉にあつめ筆者

供節
後編
四

三節作種講訳五巻

京水筆

七夕の異名　閻魔まいりの夕
おきん日の夕　盂蘭盆
八朝の出棺義　白かくびくのうしけ
十五夜　月のたゞまり月だんごの夕
秋の彼岸　主陽の祝ひ　菊の節句
菊慈童の夕　九月の雛

京山作　国安画　仙鶴堂蔵梓

神田ゆまつり

江戸神田のまつり
九月十五日山王
ゆまつりの本まつり
ちいあるむちの
みこしをまつる

せうむてんのう
天平二年の
さいしゃうまつりの
時の記をあらせまつる
文
まさかどい人皇
六十代朱雀
帝の御時
天慶二年の
二月十五日
下総の国相馬郡
岩井の人ゆて
そのときの大
せうあい

(一)

(二)藤原の忠文卿仲の平の源の国と
平の将門と下野の押領司
為朝の謀反ひとくまのごうどう
貞盛ら失ひわざりて馬ろう
ちらとひでさとこびを
ちらまの時のらくゆふ
まのさらどいまつこと
そのさられ
けり(三)

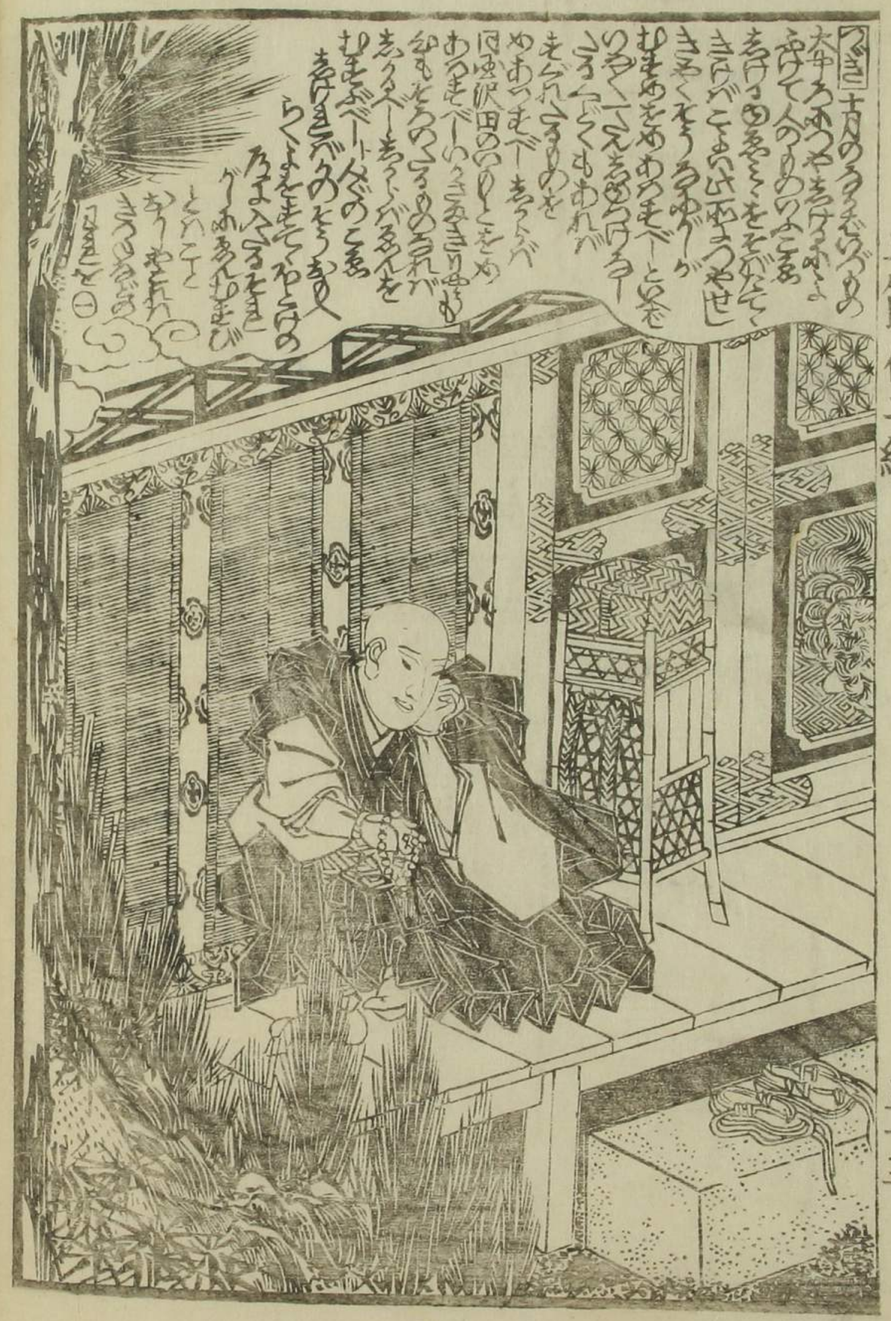
(四)

藤原の
秀郷
ごとく
ゆそ
さま
むの
あの
かど
さま

誌

つまびらかろう

神無月



…天正の比… [illegible]

十夜はなし

[illegible] 十夜と申は [illegible] 無量寿経に [illegible] 十月 十夜 [illegible] 永享 [illegible] 貞 [illegible] 京都極楽寺 真如堂にて十夜の [illegible]

㊂ 此日本朝通記に [illegible] 日本紀に [illegible]

㊃ [illegible] ㊄ [illegible] ㊅ [illegible]

御命講

十月十三日 日蓮宗の寺々へ [illegible] 上人弘安五年十月十三日 武州池上にて [illegible]

報恩講

十一月廿一日より廿八日まで 西東の本願寺にて報恩講 [illegible] 上人は弘長二年十一月廿八日 入寂 御とし九十歳

恵比須講の事

[illegible] 十月廿日 [illegible] 事代主命 [illegible] 推古天皇九年二月 [illegible] 事代主 [illegible] 市の神とさだめ [illegible]

つゞき 十一月 [illegible]

酉の市

[illegible]

髪置 袴着のこと

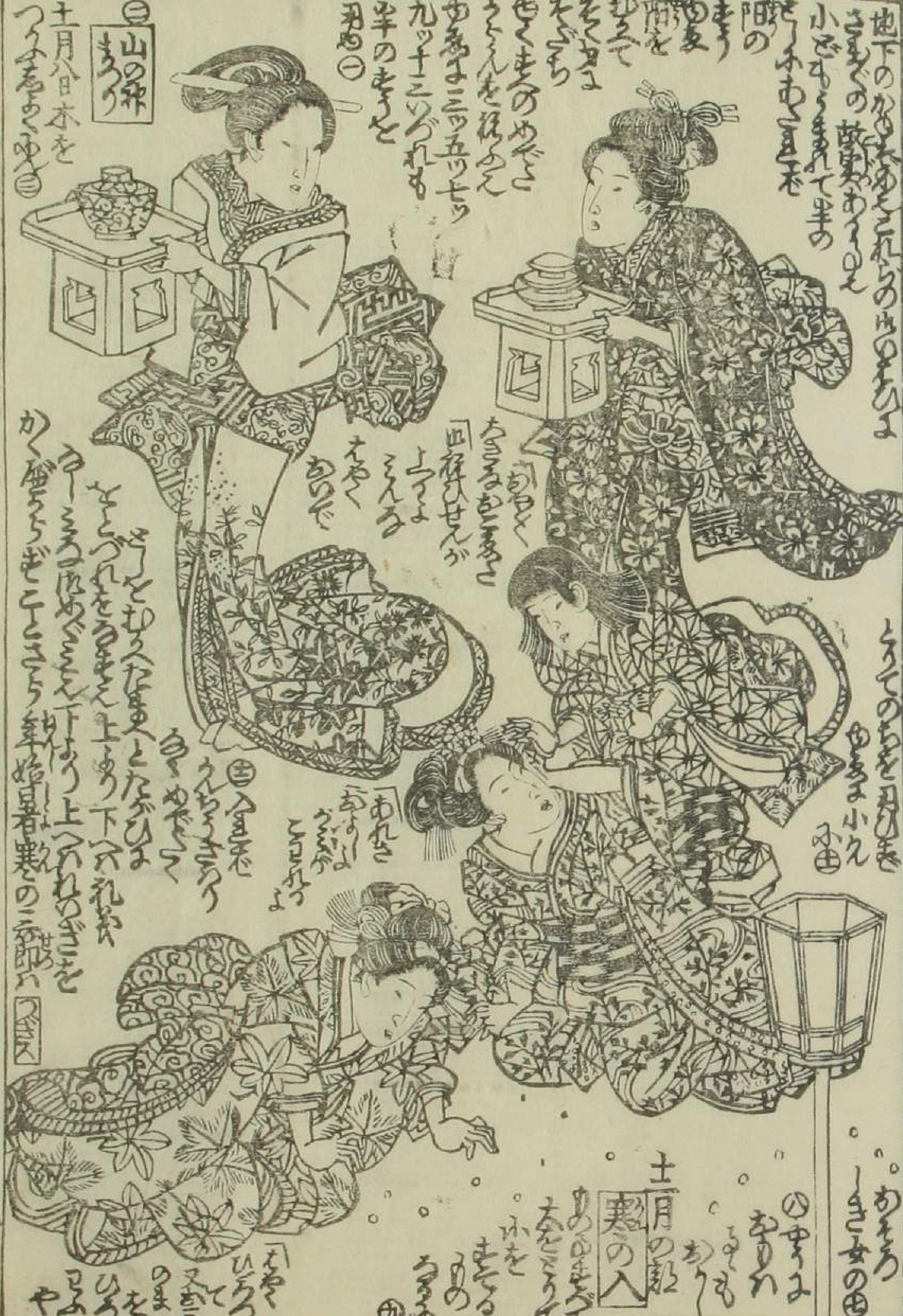
町方にて十一月十五日を [illegible] 吉日を [illegible] 男女 [illegible]

山の神をまつる [illegible]

山の神まつり

十一月八日本をつくる [illegible]

地下の [illegible]



十一月 寒の入

[illegible]

(三) 年中礼式のふしぐ〳〵[illegible]

乙子の朔日

十二月朔日を乙子の[illegible]正月を太郎月といふ[illegible]十二月をおとこの月といふ[illegible]乙子の朔日[illegible]江戸にて[illegible]

正月の事はじめ

十二月十三日正月の御儀式の[illegible]今町方にて[illegible]十二月八日[illegible]正月の事はじめ[illegible]巨旦といふ大悪人を十二月八日[illegible]

煤掃の事

四季物がたりに[illegible]十二日を用ゆ[illegible]十二月廿四日[illegible]陽成院の[illegible]

(四) [illegible]土佐日記[illegible]江戸[illegible]夫木集の[illegible]

鬼は外福は内

節分の夜[illegible]豆を[illegible]

節分豆蒔の事

[illegible]日の本の文武天皇の[illegible]年[illegible]方相氏[illegible]鬼[illegible]桃の木の弓[illegible]五[illegible]日本の豆(一)

(二)まめをまく[illegible](三)

(五) 男女とも七ッより九年めを[illegible]

厄払の事

男九九五四十三[illegible]女[illegible]十三三十三を[illegible]

大晦日

除夜・別歳[illegible]大年・行年・歳暮[illegible]

百人一首雅訳

▲女雅考五巻 京山著 近刻

▲骨董集三編 京傳遺稿 京山補訂 近刻

瀧澤馬琴氏著

迎福南鐵録

一名相宅千草 全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳奇

大本 全五冊繪入 平假名附 近刻

女消息往来

画入 全一冊

曆日講釋 全一冊 剣金卜子先生著

俳諧今四歌仙 全一冊 梅室 木木 桐雨 小圃四大人乃作 てふらでまるの書なり

追善 瀬川くらべ 全一冊 琴通舎英賀述 柳川孤柳五代めとこの孤清狂七名さこの 香蝶楼国貞画 役者ホンケらくらべ比義 流名孤柳清狂 一勇斎国芳画 文政四発句狂言ホンのもくろみ 文政四発句

消息往来詳註 高井蘭山述 全一冊

消息往来詳註 初学ハ人ノ初メテ学ブ所ノ書ナリ 国ヲ治メ家ヲ斉ヘ人ヲ教ヘ物ヲ利スル道ハ此ニ出ル 故ニ人間日用ノ急務ハ此ニ過ル事ナシ

隅田川両岸一覧北斎筆 袋入 絵本 全三冊

江戸名所東鑑 蕙齋筆 巻物 全三冊

合則 寿福三世相大鑑 全二冊

江戸名所物見丘清長筆 巻物 全二冊

拳獨誓古 中本 袋入一冊 山櫻連々 逸軒撰 作

東海道五十三次花の都路 緒大人 狂歌入 巻物 全三冊

戯場頭微鏡 黙漁隠作 巻物 上巻二冊 下巻三冊

右五通共絵上品にして多く舞に仕る浮世物抜出し絵ものの中方ホ自ら楽しむ

教真草消息往来 真草一体 分日暦 全一冊

天保巳春新版書林地本問屋仙窟堂

傾城水滸傳第十二編 曲亭馬琴作 歌川国安画 四冊

年中行事五節供稚講譚 山東京山作 歌川国安画 前八冊 後八冊

三國志畫傳第五編 重田貞一譯 歌川国安画 全八冊

百人一首童講譚 山東京山作 歌川国安画 初編四冊 二編四冊

浮世説 柳亭種彦作 歌川国貞画 全四冊

八萬藤王傳記 二代目十返舎一九作 歌川貞景画 全六冊

花街雀竹夜遊 柳亭種彦校 厚田仙果譯 歌川国貞画 後編四冊

國字水滸傳第十三編 柳亭種彦校 歌川国芳画 全四冊

彦紫田舎源氏 柳亭種彦作 歌川国貞画 九編

霞帯メ如月 柳亭種彦校 歌川国安画 全六冊

春遊霞の彩色 柳亭種彦校 歌川国貞画 全四冊

星下梅花咲 柳亭種彦作 歌川国貞画 全四冊

仙女香四十九美女香四十九美人図製

成駒香 鶴屋喜右衛門

書物師 江戸通油町 團扇地紙問屋鶴屋喜右衛門